

総評(札幌会場)



北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会

会長 宮内 泰介

みなさん、おつかれさまでした。活動発表を楽しく聞かせていただきました。本当は参加されているすべての団体にお話を聞きたいと思うのですが、時間の都合で札幌会場では5つの団体にお願いしました。報告会は毎年開いています。毎年参加していただくと、かなり多くのグループの話をお聞きいただければと思います。

一口に森づくりといっても非常に多様な取り組みがあるということが、みなさんのお話をうかがって、改めてよく分かりました。

「当別金沢の森ネイチャーセンター」の取り組みは、現段階では非常に小さなエリアで、森林と子どもたちとの関係性を深めること、エネルギーを地域で循環させることを軸にした活動でした。

「冷水峠森づくりの会」の事例は、福祉と森づくりの連携です。「どうして福祉と森づくりが一緒に？」と思われるかもしれませんが、実は案外相性がよくて、近年各地で同様の取り組みがみられます。

「イコロの森を育てる会」は、もともとイングリッシュ・ガーデンが中心だったエリアに、積極的に森づくりを加えて、コミュニティづくりにも貢献しているという事例でした。

「弁華別協働の森の会」は、ある意味「森づくりの王道」といいたいでしょうか。いくつかの団体が協働で、技術をいろいろ試しながら、学習会も開きながら、森づくりに取り組んでおられます。

最後の「暮らしと森 Life with forest」の事例ですが、森についてはいわばシロウトのみなさんが、自伐型林業を軸に学びながら、森の中に道を造られました。

林道や作業道のことを「森と人間をつなぐインタフェース」と表現する人もいます。道造りを通して森との関係を作り直し、人が森から利益を得る、あるいは人が森を再生していくわけです。

このように本当に多様な「森との関係」が報告さ

れたことを大変うれしく思いました。

人と森との関係がどうあるべきか、森をどう保全・利用していくべきなのか、という問いには、実は決まった答えはありません。いろんなあり方があっていい。いろんな地域で、多様な人たちが、多様な取り組み、森林との多様な関係を作っていくことこそが、全体として、「良い森づくり」「良いコミュニティづくり」「良い人間関係づくり」につながるんだと思います。これがもっともっと広がっていけばいいなあと思いつつ、みなさんの発表を聞きました。

そのためにも、私どものこの交付金をうまく活用していただければと思います。平成29年度から制度が変わり、「ちょっと使いづらい」と感じておられるかもしれません。

この制度はもともと、まさに「森林の多面的機能」をより発揮させようと立案された、林野庁としては冒険的で新しい発想の事業でした。その後、いろいろな事情で方向性が多少変わってきている部分もあります。そういう面もあるんですけども、制度そのものの面倒くささとかは、団体のみなさんになるべくご負担をかけないよう地域協議会が間に入ります。ぜひ積極的に活用していただければと思います。

おそらく多くのみなさんは、この交付金以外の助成金・補助金などを組み合わせて使っておられると思います。それで良いと思います。財源をうまく組み合わせて、またほかの団体とも連携しながら活動を続けていただければ、私どもも、それを少しでもお手伝いできればと思っています。

今後もこの交付金を活用して、北海道全体、日本全体として良い森づくり・人づくり・地域づくりにつなげていただければと願っています。今日は本当にどうもありがとうございました。